

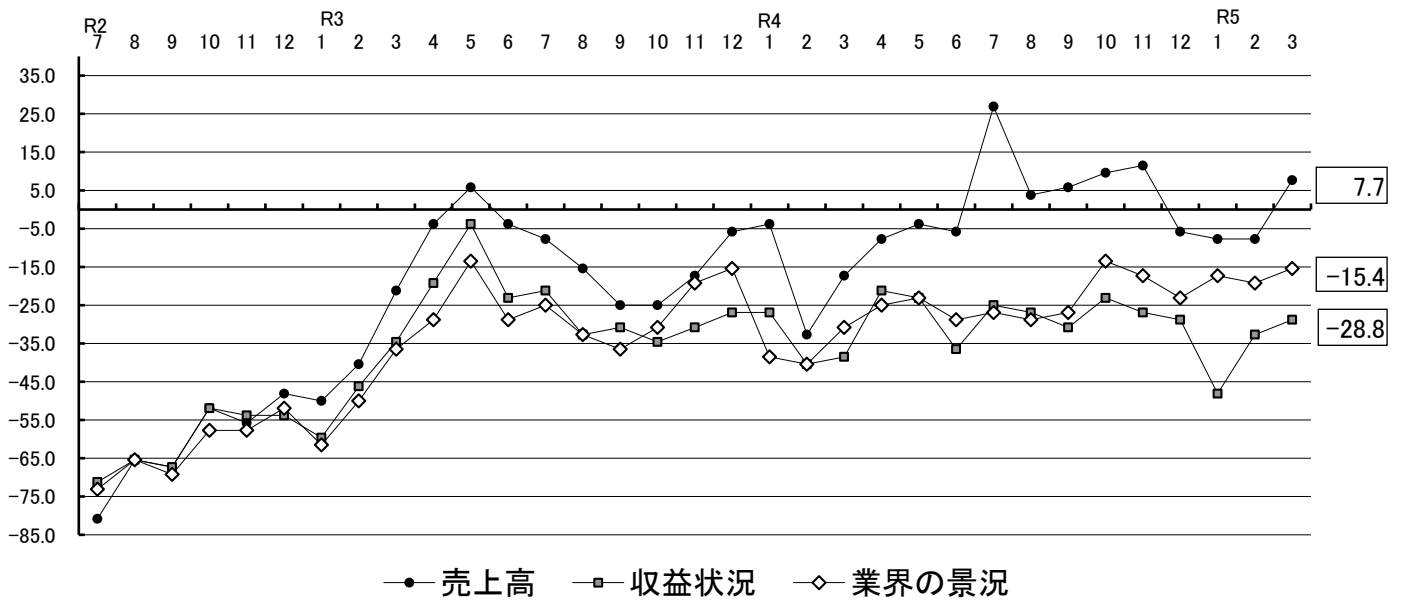
中小企業団体情報連絡員報告結果(令和5年3月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員(中小企業組合(協同組合、商工組合等)の役職員52名に委嘱)による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要3指標は、「売上高」が大幅に上昇、「収益状況」「業界の景況」もわずかに上昇した。
- 製造業で「繊維・同製品」「木材・木製品」、非製造業で「小売業(飲食業含む)」が依然として厳しい。
- コロナ規制の緩和と年度末需要で経済活動に動きが出たが、依然、材料・燃料の高騰に苦しめられている。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	+7.7	+15.4	+9.0	+8.6
収益状況	-28.8	+3.8	-22.7	+6.4
業界の景況	-15.4	+3.8	-17.2	+5.5

売上高

当月の県内売上高DI値は、前月より15.4ポイント上昇し、+7.7ポイントとなった。全国においては、前月より8.6ポイント上昇し、+9.0ポイントとなった。

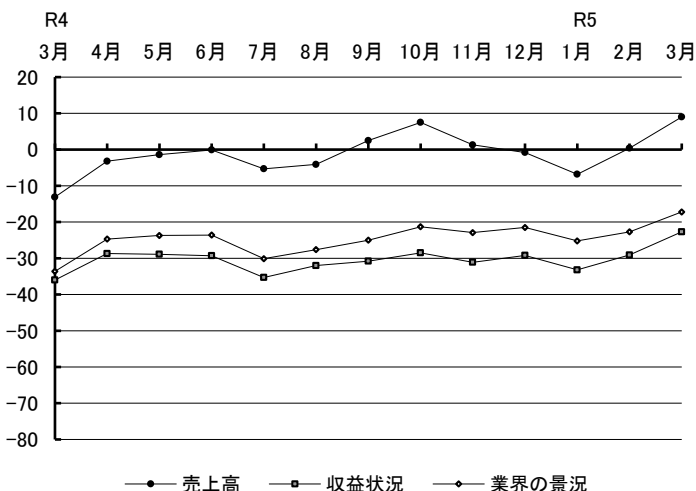
収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より3.8ポイント上昇し、-28.8ポイントとなった。全国においては、前月より6.4ポイント上昇し、-22.7ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より3.8ポイント上昇し、-15.4ポイントとなった。全国においては、前月より5.5ポイント上昇し、-17.2ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概 況-

3月の前年同月比DI値は、前月と比べ9指標中4指標が下降した。主要3指標は「売上高」は15.4ポイントの大幅な上昇、「収益状況」「業界の景況」はともに3.8ポイントのわずかな上昇となった。

情報連絡員の報告によると、製造業全体としては売上高・販売価格の上昇が見られるも、原材料価及び燃料費の高止まりの影響により依然として収益状況は厳しい。価格転嫁を進めても何度も仕入価格が上がるため追いつかない、との声もある。

非製造業の「卸売業」では好転とする企業も見られ始めたものの、「小売業」では前述の製造業同様、燃料費等上昇により苦戦を強いられている。また、消費者が価格に対して敏感になっており、買い控えている。「運輸業」では一般乗用に関しては人の動きが戻ってきており売上が伸びている。貨物に関しては、自動車部品不足の解消が見られ業況の回復が期待できるが、燃料費や整備費用等の上昇により収益においては苦しい状況が続いている。

製造業・非製造業ともに、賃上げ要求、人手不足など収益悪化の他にも難しい課題に直面している。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	75.0	50.0	25.0	-25.0	0.0	-25.0	25.0	0.0	0.0
繊維・同製品	0.0	0.0	25.0	-50.0	-75.0	-25.0	0.0	-25.0	0.0
木材・木製品	-25.0	0.0	25.0	0.0	-75.0	0.0	-50.0	-50.0	-100.0
印刷	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0
窯業・土石	25.0	-50.0	25.0	0.0	-25.0	0.0	-25.0	0.0	-25.0
鉄鋼・金属	0.0	0.0	50.0	-25.0	-50.0	-50.0	-25.0	-25.0	-25.0
一般機器	0.0	0.0	25.0	-25.0	-25.0	-25.0	0.0	0.0	-25.0
製造業	16.0	0.0	32.0	-20.0	-36.0	-20.0	-8.0	-16.0	-24.0
卸売業	33.3	-33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	/	33.3	0.0
小売業	-71.4	0.0	28.6	-28.6	-57.1	-57.1		0.0	-71.4
サービス業	16.7	/	66.7	16.7	0.0	0.0		0.0	33.3
建設業	40.0		40.0	0.0	-40.0	-20.0		-20.0	0.0
運輸業	25.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	25.0
その他	0.0		50.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	0.0	-10.0	40.7	-3.7	-22.2	-18.5	0.0	-7.4	
全体	7.7	-2.9	36.5	-11.5	-28.8	-19.2	-8.0	-7.7	-15.4

	4年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	5年 1月	2月	3月	前月比
売上高	-17.3	-7.7	-3.8	-5.8	26.9	3.8	5.8	9.6	11.5	-5.8	-7.7	-7.7	7.7	15.4
在庫数量	-20.0	-17.1	-14.3	-5.7	-11.4	-5.7	-14.3	5.7	5.7	-5.7	2.9	2.9	-2.9	-5.7
販売価格	21.2	25.0	25.0	23.1	32.7	30.8	30.8	36.5	34.6	30.8	23.1	25.0	36.5	11.5
取引条件	-7.7	-7.7	-9.6	-9.6	-9.6	-9.6	-13.5	-7.7	-11.5	-7.7	-11.5	-9.6	-11.5	-1.9
収益状況	-38.5	-21.2	-23.1	-36.5	-25.0	-26.9	-30.8	-23.1	-26.9	-28.8	-48.1	-32.7	-28.8	3.8
資金繰り	-21.2	-13.5	-11.5	-13.5	-13.5	-25.0	-21.2	-15.4	-21.2	-21.2	-30.8	-17.3	-19.2	-1.9
設備操業度	-12.0	-20.0	-16.0	-20.0	4.0	-12.0	-12.0	4.0	12.0	0.0	-4.0	-8.0	-8.0	0.0
雇用人員	-5.8	-7.7	-13.5	-13.5	-3.8	0.0	-1.9	-3.8	-5.8	-3.8	-1.9	-3.8	-7.7	-3.8
業界の景況	-30.8	-25.0	-23.1	-28.8	-26.9	-28.8	-26.9	-13.5	-17.3	-23.1	-17.3	-19.2	-15.4	3.8

図表2 【指標別DI値の推移】

特記事項

情報連絡員報告（令和5年3月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	和洋菓子製造業	全体的には人の動きもあり売上等は増加傾向にあるが、観光地など一部の地域に片寄りがある。また、物価高騰による買い控えが見られる。業界的には卵など極端な品薄があり、今後の影響が心配である。
	あん類製造業	お彼岸の季節でコロナ前と同様の忙しさになった。旅行支援の影響も大きいと思われる。
繊維工業	縫製業	5月頃までは受注は安定しているが、ゴールデンウィーク中の売れ行きによって変化すると思われる。製造原価が上昇しているにもかかわらず販売単価は少ししか上がらず苦しい状況が続いている。
	絹・レース・繊維粗製品製造業	新型コロナウイルスの影響も徐々に弱まり経済活動の好転も期待できると聞くが、業界内ではまだ明るい兆しを感じられないという意見がほとんどだ。全体的な物価高騰の影響は大きく、原料である綿花は不作が続き海外からの輸入コストは上昇し続けている。
木材・木製品	一般製材業	建築木材はウッドショック以前の価格に戻ったが、住宅需要の落込みから景況が更に悪化すると懸念している。
	家具・建具製造業	売上増加・販売価格の上昇が見られるも、依然材料価格の高値が続いており、収益は上がらない状況が続いている。売上増加は期末駆け込み需要を反映している。
印刷	印刷業	コロナ禍が収束に向かう共に需要も一部戻りつつある。資材の値上がり分の価格転嫁を進めているが、何度も価格が上がるので追いつかない状況だ。
窯業・土石製品	石灰製造業	昨年に比べ、鉄鋼向けは若干減少、建材関係は減少、肥料関係は増加した。鳥インフルエンザ関連の消石灰の出荷があった。全体では、昨年に比べ増加した。
	陶磁器・同関連製品製造業	3月に入り気候も良く、来客数も増加している。春の陶器市も近く、製陶業者への販売も増えて来た。また、原料の県外発送も増加している。2月に比べ3月は増収の見込みだ。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	自動車向け金型においては話題に乏しく新規受注に先が見えない現状だ。自動車部品製造においてもメーカーによる減産の影響から、生産量が厳しくすべての物価高騰を受け、耐える経営が続いている。エネルギー関係のさらなる高騰で再度の価格転嫁が必要だ。3月末の期末需要にも活気がなく、賃上げの状況ではない。暖かい日が続いており、夏の電力不足が懸念される。
	金属製品製造業	自動車部品・機械設備・金型関連ともに不変。（主にコロナ禍による売上不変、人件費増加、人手不足、原材料仕入れ単価の上昇）
一般機器	一般機械器具製造業	前年同月との比較では全般的に変化なし。売上高はほぼ前年同月同様の組合員企業が多いが、仕入れ資材の状況は引き続き高値傾向であり、電気料、消耗品等の更なる値上懸念もある。これに対し販売価格の転嫁が出来ている企業もでてきているものの、販売価格交渉中の企業も少なくない。操業度はほぼ前年同様、企業によっては人手不足があるものの今後の見通しに不安を感じている企業も存在する。今後のロシアによるウクライナ侵攻による化石燃料の上昇や物価上昇等、短期的に不確実な経済状況の懸念材料が多々ある。
	一般機械器具製造業	原材料価格や電力料金の高止まり感、売上も前月に比べ減少しており収益状況は悪化している。省エネ設備投資や人手不足に対応する省人化・省力化投資を検討している。
卸売業	化粧品卸売業	年間通しての意見だが、以前よりも製品のライフサイクルが短くなってきたように感じる。飽きられてしまうのが早くなったため、あまり在庫も抱えないようにしている。

	各種商品卸売業	一部業種を除き、前年同期に比べ売上高・収益・業況等は好転とする企業が多い。仕入単価上昇の影響により利益率は減少とする企業もある。アフターコロナを見据え、新卒採用者数を前年同期比増とする企業が増えた。
小売業	食肉小売業	コロナ禍も落ち着き、人の動きも出てきた。消費者は買い控えているため、全体的に低価格物が売れている。
	中古自動車小売業	新車の納期期間が短縮され順調に納車が進み、下取りなど中古車が流通市場に流入。小売が芳しくなく来客も減少し、業者の仕入れ意欲は減退している。中古車の流通相場は引続き下落し、在庫の評価価格も落ち苦しくなっている。
	各種商品小売業	街中の賑わいが戻り景気が持ち直していくことが期待されているが、燃料費等の高騰で苦戦している。引き続き景況は悪化している。
	各種商品小売業	物価高による影響か、生活必需品に近いもの以外を扱うテナントの売上が軒並み落ち込んだ。消費者が価格に対して敏感になっている状況だからこそ、価格競争に巻き込まれないような工夫・努力・独自性が必要とされている。
サービス業	理容業	年度末ということもあり、高齢組合員の廃業・脱退が増加している。後継者がいないため、やむを得ない脱退がほとんどを占めている。組合のできる範囲の対応策を考えていきたい。
	自動車整備業	若干の売上高増加が見られたが、予想より利益率は見込めず、経費の削減・見直しを検討する。
	ビルメンテナンス業	競争の激化により、福祉用具レンタル部門の売上高が減少している。ビルメンテナンス等の業況は変化なし。
	給食センター	同業他社との競争もあり、なかなか価格転嫁が進められず厳しい状態。物価上昇及びエネルギー価格の高騰と厳しい局面の中、賃上げ要求もされ、今後どのような展開を図るか正念場を迎えている。
建設業	総合工事業	建設業界においては、少子高齢化の影響を受け技術者の確保が大変難しい状況だ。
	職別工事業	年度末においては例年同様、活況を帯びており人手不足の企業が散見された。売上は顕著に伸びているが、相変わらずの仕入れ価格の上昇等により収益面においては苦しい状況が続いている。
運輸業	貨物自動車運送業	自動車部品不足が和らいできたため組合員の業況は改善傾向にあるが、その他の輸送量は未だに少なく、車両の稼働率も改善されない。燃料費・車両整備費用など全てが上昇となり収益が悪化している。生鮮品等を扱う企業は倉庫内の温度管理が必要なため、電気代の高騰は大きな問題である。
	一般乗用旅客自動車運送業	コロナ規制も今のところ落ち着き、街中の人通り、特に他県からの客が増加しタクシー1台当たりの売上が伸びている。週末など、深夜時間帯はタクシー不足が見受けられる。
その他の非製造業	大谷石採石業	組合内の業況に変化はない。観光面では外国人が増えてきている。